

中学生新人戦 戦況

男子決勝 大分中学 VS 大東中学

今夏、2年生チームながら九州第3代表を勝ち取り全中に出場した大分中学にファイナルで戦いを挑む事になった大東中学が決勝戦のカードと成った。

立ち上がり、両チーム共に持ち味を發揮して好プレーが続く。

大東はアグレッシブルな攻撃で大分のディフェンスを崩しシュートを放つが、大分の守護神 片山が連続で好キーピングをして得点を許さない。大東のGK本田も再三のノーマークシュートを阻み、両キーパーが奮起する。

大東は、このキーパーの頑張りを得点につなげる事ができず要所要所で得点を重ねた大分が11点リードで前半を終えた。

後半は、1点を争うゲーム展開となった。大東は最後まで全員が気持ちの切れないハンドボールを行ったように思えた。後半だけのスコアは13-9と4点リードされたが前半の反省を生かしてゲームを行った様に感じられた。

結果は、29-14で大分が優勝を飾った。大分はすべての力を出し切れず、イージーなミスが多かった用に思えた。しかし、どんなに悪くても15点差で優勝を飾れるのは自力の差だとも感じれた試合だった。

女子決勝 原川中学 VS 東陽中学

スタートから激しくスピーディーな攻防が展開され会場中の観客を一喜一憂させた。

しかし内容としては、原川はシュートを放つも東陽キーパーの岡嶋の好守に阻まれ得点出来ない。一方東陽は、オフェンスにてミスが続くシュートまで持っていけない状態が続く5分を過ぎても0対0と得点が動かない。5:16 原川6番佐藤のシュートが決まり、決勝戦の1点目が入る。これを皮切りに得点が動き出す。16:21 原川の連取で6対2となったところで東陽がタイムを要求！立て直しを図ったが、互いに5点を取って11対7の原川4点リードで前半を終えた。

後半、原川はディフェンスの修正を図りセットオフェンスにてのゲーム展開を行う。東陽は、得意の走るハンドを中心に立て直しを図ってきた。それぞれの持ち味を生かした内容となったが、相手のミスを実に得点につなげ流れを引き寄せた原川が、22対12で勝利し新人戦優勝を飾った。

今大会を通して、市の新人戦同様の優勝校となったが、点差ほどに内容は差が無い様に感じられた。来年1月に開催される春中・九州選抜予選での全チームの成長を期待したい。